

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第288号	氏名	Ana Maria Masae Suzuki
学位審査委員	主査	中山 浩次	
	副査	林 善彦	
	副査	筑波 隆幸	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、副作用として歯肉増殖症を誘発することが知られている免疫抑制剤サイクロスポリンAと抗てんかん薬フェニトインの歯肉炎症に及ぼす作用を明らかにしようとしたものである。これらの薬剤の従来明らかにされていなかった炎症修飾作用に着目しており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 健常者から分離した7株の歯肉線維芽細胞を実験に使用し、炎症反応の個人差による影響を可能な限り除外するようにデザインしている。更に、種々の統計学的解析法で解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 培養ヒト歯肉線維芽細胞における接着分子CD54の発現量およびIL-6、IL-8の産生量に関して、一貫してサイクロスポリンAは促進的に作用し、フェニトインは抑制的に作用していた。更に、動物実験においてもCD54の発現量に対してサイクロスポリンAの促進効果およびフェニトインの抑制効果がみられ、サイクロスポリンAとフェニトインの相異なる効果を多面的に解析している。これらの結果は、サイクロスポリンA誘発性歯肉増殖症とフェニトイン誘発性歯肉増殖症の炎症反応の違いの一因となっていると考えられ、今後の歯肉増殖症の治療法開発への応用が期待される。</p> <p>以上のように本論文は歯周病学の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			